

2008年4月15日

Daily comment

株価(米企業決算)睨みの神経質な値動きに!?

週明けの為替マーケットは、ドル買い戻し先行による G7 ギャップ(チャート上の窓)を伴って始まったが、欧州序盤には窓埋めを完了し、ドルは対ユーロで 1.5887 ドルへ、対円では 100.30 円へ急落する場面がみられた。

米銀 4 位のワコビアが、18 日から予定を前倒して 1 - 3 月期決算を発表、サブプライム関連の貸倒引当金と評価損の拡大が響いて予想外の赤字となり、クレジット問題がさらに表面化すると懸念からドル売りが加速した。

しかし、3 月の米小売売上高が予想外の増加を示したため、これが米主要 3 株価指数を下支え、ドルも急速に買い戻されている。

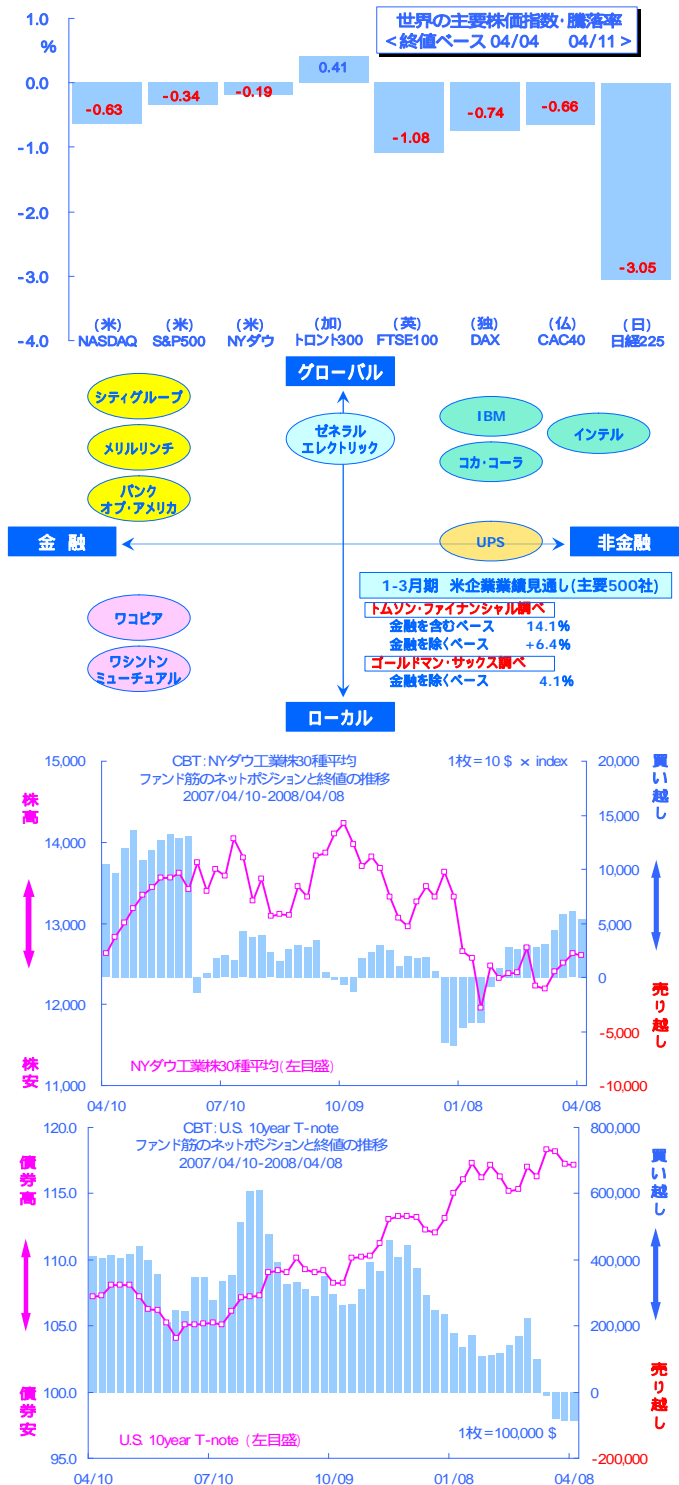
小売売上高の増加は値上がりが見られるガソリン販売によってもたらされたテクニカルなものであり、個人消費の底堅さを示すデータとは解釈しづらいが、それでも株価が好感したのは悪材料の織り込み進捗を示唆する兆候かもしれない。

その真意は、本格化する米 1 - 3 月期企業決算で問われることになり、先週末の GE ショックや昨日のワコビア・ショックがどういう意味を持つのか、大手金融機関やグローバル企業の決算を通じて再考することになる。

こうした状況下、NY ダウ先物におけるファンド筋の持ち高は、FED が大幅利下げを決めた 1 月末にショート・カバーが誘発され、2 月 5 日から 4 月 8 日まで 10 週連続で買い越しとなっている。

これに対して、米長期金利の指標である 10 年債先物のファンド筋の持ち高は、ベア・スターンズ救済合併(03・16)後の 3 月 18 日から 4 週連続で売り越しと、長期金利の上昇を想定したポジションが構築されている。

つまり、マネージド・フューチャーズと呼ばれるヘッジファンドは、FED による大恐慌以来の何でもありの金融緩和策を受けて「株高・債券安」の強気シナリオを描いているわけであり、こうしたストラテジーの有効性も今週発表される米主要企業決算で試されることになる。



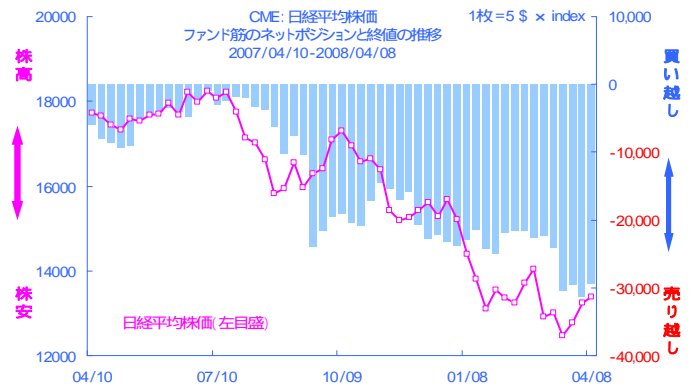
当レポートは、投資の参考となる情報提供を目的としたもので、投資勧誘を意図するものではありません。投資の決定はご自身の判断と責任でなされますようお願い申し上げます。記載された意見や予測等は、作成時点における 森 好治郎 個人の見解であり、その正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることもありますのでご留意ください。

日米欧などの金融監督当局で構成する金融安定化フォーラム(FSF)の最終報告書(04/12)には、格付け会社の格付け基準厳格化、銀行の自己資本健全化に向けた新 BIS 規制・バーゼル の強化などが盛り込まれている。このことは、金融機関がさらなる追加損失の計上やバランスシート調整に追い込まれかねないことを示唆しており、最悪期を脱したとのコンセンサスを形成するまでには相応の痛みを伴う覚悟が必要かもしれない。

上述したマネージド・フューチャーズは、CME 日経平均先物では膨大なショートを抱えており、彼らが強気一辺倒ではないことを示している。

海外勢にとって日本株は、世界経済に対する景気敏感株と位置付けられているだけに、日経平均の膨大ショートポジションが解消に向かうまでは円高リスクも残存することになる。

(4月15日 11:35 記)



当レポートは、投資の参考となる情報提供を目的としたもので、投資勧誘を意図するものではありません。投資の決定はご自身の判断と責任でなされますようお願い申し上げます。記載された意見や予測等は、作成時点における 森 好治郎 個人の見解であり、その正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることもありますのでご注意ください。